淀姫通信

平成二十六年六月五日
皇紀２６７４年
（西暦２０１４年）
第79号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

梅雨入りもしまして…

全国的におかしな天候みたいです

これを書いているのは六月の五日です。

全国各地、続々と梅雨入り宣言が出されています。ここ、九州でも六月二日に梅雨入り宣言が出されました。そう大した雨は記録されていませんが、九州南部などでは、記録的な大雨が観測されているようです。一方、東北や北海道では季節外れの猛暑が記録されている模様です。

ニュース番組でも盛んに報じられていましたが、今年は日本上空の偏西風が極端に蛇行していて、いつものこの時期としては、かなりおかしな天候になっているようです。

この号が皆さまのお手元に届く頃には、どういう気象状態になっているかわかりませんが、あまり極端な天候にならないように祈るばかりであります。長期予報などを見ると、今年もなんだか極端なことになりそうです。皆さまには情報を常にチェックして、日頃から気をつけてお過ごし下さい。

季節の言葉あれこれ

今回もこの時期にまつわる言葉をあれこれと紹介してみたいと思います。

期間は六月十五日から六月三十日までの言葉を集めてみました。

【五月雨】（さみだれ・さつきあめ）

「五月雨（さみだれ）」の「さ」は、過去に「田の神」とご紹介したことがあります。

この場合の「さ」は、田植えの古語でもあり、五月を示す言葉の「五月（さつき）」「早苗（さなえ）」の「さ」と語源は同じだそうです。

「みだれ」は「水垂れ」と書き、まとめると、「五月に降る雨」ということになります。

現在使われている新暦では、少々季節感がずれますが、旧暦では五月が梅雨の時期にあたりますので、五月に降る雨を「五月雨」というそうです。

また、「五月晴れ」という言葉もありますが、本来は梅雨の五月雨の合間の晴れ間のことを指し示すそうです。

余談ですが、暦をみてみると、今年は五月二七日が旧暦の六月朔日となります。この日から、旧暦六月の「水無月」となります。

【仲夏】（ちゅうか）

二十四節気の「立夏」から始まる夏の二番目の月を表わします。

旧暦では、「立夏」から「立秋」の前日までを「夏」としています。

そのなかでも、季節は三つに分かれています。

旧暦四月は「初夏」
旧暦五月は「仲夏」
旧暦六月は「晩夏」

おおよその目安としてはこのような季節の区分をしていたようです。

現在使われている太陽暦では、あまりピンとこないものがありますが、旧暦では七月（現在の八月上旬）からは「秋」が始まります。

現在の太陽暦では（なかでも日本においては特に）、六月・七月・八月を「夏」と定義していますので、季節感としてはなんとなくこちらの方が合っているようです。

ちなみに、日本の気象学においても、この三か月をを「夏」と定義しています。ちょっとややこしいですね。

淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 http://yodohimejinja.com/

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。
ぜひともチェックしてくださいませ。